



妙高市立妙高高原北小学校 11月号

# 学校だより

令和2年11月1日

## 「見えない」仕事、暮らしを支える

校長 岡田 和則

10月17日に、青空こどもまつりを実施しました。午前中は5月に実施できなかった運動会を、午後は例年のように親子体験活動を行うことで、コロナ禍の下ですが、子供たち、保護者の皆様が一日輝いて過ごせるようにと、9月から準備を重ねてきていました。

しかし、前日は抜けるような秋空だったにもかかわらず、天気予報では当日の午前中は雨。しかもかなり気温が低下するという予報です。(17日は、妙高山も初冠雪を記録するような日となっていました。) 予報精度の向上もあり、子供たちの心構えや防寒、会場準備などの面から、早いうちでしたが前日に判断し、体育館で実施することとしました。(写真は中面に) 種目は限られましたが、「できることを精一杯」「為せば成る」「負けたくない」という気持ちを前面に出し、競技に、応援に、そして全校ダンスにと、スローガンにもあるよう、力を出し切ったのではないかと思います。午後には晴れ間ものぞき、4つの親子体験活動にも取り組むことができました。(写真は最終ページ) 一つの壁を乗り越え、子供たちの成長につながったと受け止めているところです。

さて、ふるさとを大切にできる子に育ってほしいと願い、妙高高原と関わる様々な体験活動に各学年で取り組んできています。10月には、1,2年生が笹ヶ峰、3年生が燕温泉を訪れ、調べ学習を行いました。そして5年生は6月の「かすみの滝」に続き、22日(木)に妙高山の頂上に迫る「称明の滝」「光明の滝」まで登り、紅葉を満喫、雄大な自然を学ぶことができました。

その滝見学の途中、赤倉の温泉組合の方々が源泉小屋の冬支度を行っている場面に出会うことができました。かなり山道を登っていかねばたどり着けない場所です。もちろん子供たちは初めて、こんな山の奥から温泉が流れてきている、温泉を守るために、毎日道路の修理や縄流しでパイプのつまりを防いでいる、10km以上に渡り温泉の流れを守っている作業についてお話を聞くことができました。車では上がってこない場所、いつも歩いて登ってきている組合の方々。谷すれすれの山道をおっかなびっくり、もうくたくたになって登ってきた子たちにとっては、本当に驚きの現場でした。また、ここで作業をする方だけに許された源泉中の源泉(「硫黄泉」ではなく、唯一の「炭酸泉」)にも入れていただくことができ、疲れた体を癒すこともできました。



普段はうかがい知ることができない仕事、私たちの生活を支えてくれています。「見えない」ところこそ「真実」がある場合もあります。体験を通して考え、見えそうで見えないもの、「支える」「支えられている」ことへの気づき、様々に思いを馳せることができる心が育っていくことを願っています。



## 親子で体験、楽しかったね!

青空子どもまつりの後半は、「キンボール」「ペットボトルロケット」「リースづくり」「ニジマス釣り」の4つの体験コーナーに分かれ、午後のひと時を楽しみました。みんなのすてきな笑顔が見られ、充実した体験活動を行うことができました。



## 妙高市ジュニア芸術展で入賞!

10月24日(土)～11月3日(火)までの間、妙高市文化ホールホワイエにて展示されています。ぜひ作品をご覧ください。

<金賞> 6年: 椎葉海絵

<銀賞> 1年: 臼井健 4年: 池田咲希

<銅賞> 3年: 常田絢音、松澤結月 4年: 内田優来 6年: 鈴木匠

<努力賞> 3年: 竹内大耀 6年: 川本康輔、畑山さくら

<入選> 1年: 竹内結梨、山川隆聖 2年: 小山奈津、深田椎菜 3年: 阿部泰士、常田琴音、山崎来也、吉崎苺花 4年: 川久保洸誠、長崎こころ、レビディス咲蘭 6年: 岡田琉暉、川久保心和、岬本翠凧、滝澤椿人、松澤璃音、三留快知